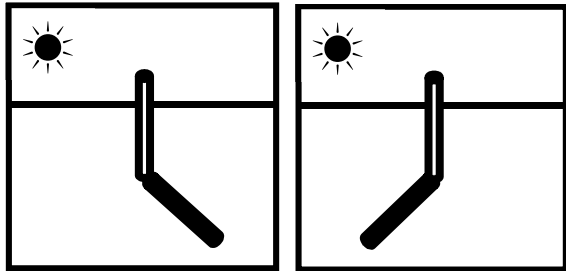
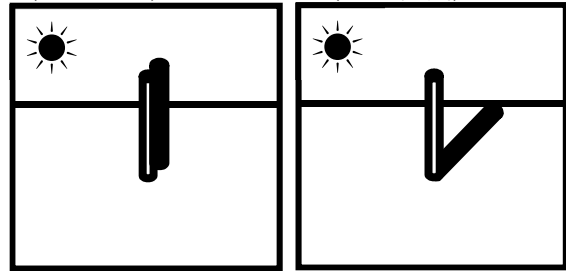


3 年	理科	「太陽とかげ」 9 時間	概 要	既知・既習事項の確認 視点や疑問を持たせる手立て	適 ○
手 立 て	自己調整するためには、まず自分自身のスタート地点を把握することから始まると考える。そこで、以下のような手立てを行った。 ・既知、既習事項の確認 →児童が現在その単元に関してどれほどの理解度なのかを確認する。 ・視点や疑問をもたせるための手立て →見比べた かげつなぎについても書く →その単元に関して学習前のイメージと学習後のイメージを比較することで、自分の学習の成果を確認する。		児 童 の 様 子	・児童が書いたかげのパターン (15 人程度) (10 人程度)  (1～2 人) (5 人程度)  ・上記のパターンを比べ、共通点と差異点を児童が見付けていた。そして、その点を単元の視点とし、問いを作って進めていた。 ・体験活動のかげつなぎの段階で単元の視点をもって活動しているので、かげの向きやかげができる位置に注目していた。 ・実験等を進める中で、児童は 1 枚目のパターンが正しいと理解していった。 ・絵+かげがどのようにできるのか文にし、学習前の絵と見比べた。 文章を詳しくかけた、絵も具体的に影の向きを意識して書けた	
	成 果	・児童は自身の現状の理解度を把握することができた。 ・児童は、視点をもって学習をすすめることができた。 ・理科だけでなく、社会（くらしを守るで実施中）、国語（初発の感想と学習後の感想を見比べる）などで活用できる。		課 題	・学習前の現状把握はできるが、学習後に学習前と比較して児童成長したぞ！」と思っているかどうかわからない。振り返りで、自己評価を行い、フィードバックすることが大切である。